



【感染リスクを考慮して列席者が制限された】

規模を縮小して開催 国鉄原爆死没者慰霊式

第48回国鉄原爆死没者慰霊式が8月9日、浦上駅構内の慰霊碑前で営まれた。今年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、規模を大幅に縮小し時間も短縮された。

式は10時50分、上之濱地区本部書記長が「現在被爆者の平均年齢は83才を超え被爆体験の風化が懸念されている。唯一の被爆国である日本の安倍首相は今なお核兵器禁止条約の

署名・批准に否定的だ。私達は世界の恒久平和を願い、二度と悲惨な戦争へ回帰する動向を許さない取り組みが必要」と会式の挨拶を行った。

続いて、慰霊碑に刻まれている「てんをうつな」の碑文を島田執行委員が一言ひとことをかみ締めながら朗読。この後11時2分、全員で黙とうをささげた。

式典を代表し豊田執行委員長は、列席した退職者、組合員に謝辞を表し、新型コロナウイルス感染症の消息が見えない状況で大幅に制限して開催した経緯を説明。「2017年に国連で採択された核兵器禁止条約に署名しない日本政府に被爆者と国民の怒りは増大している」と政府を批判し、「私達は、原発再稼働に反対し、再生可能なエネルギー政策への転換

と、脱原発社会の実現に向け核廃絶の運動を強化しよう」と挨拶した。

岩元九州本部書記長は、「日本国憲法には、戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権の否認が明確に規定されています。この平和憲法を守り抜き、反戦・平和、核兵器廃絶を世界に向けて発信することが重要です。被爆者の高齢化が進んでいる現状から、多くの課題解決が急がれており、被爆者の援護法の適用拡大などの取り組みを強めていかなければなりません。国鉄労働組合も微力ながら全力を尽くす決意です。」と松川中央執行委員長

の追悼の辞を代読した。

また、「原爆投下直後、いち早く救援列車を動かし、我が身を省みず国鉄職員としての使命を全うされた諸先輩方に対し、深く敬意を表します。

今後とも尊い命をかけて守り抜いていただいた九州の鉄道を、地域の皆様から愛され、親しまれる鉄道で在り続けるよう、全社員が力を合わせ勤めて参る所存であります。」と西川JR九州長崎支社長の追悼の辞を神近副執行委員長が披露した。

最後に献花が行われた。実行委員と退職者など約20人が列席した。(Y)

慰霊碑の清掃



【お疲れ様でした、7月31日】

◆車掌協議会中止について◆

5月26日、27日にかけて、長崎主催の協議会に向け、場所の設定、見学、散策コースなど、長崎のメンバーで下見を行い、事務局と連携しながら、数か月前から準備してまいりました。勤務明け、休日など時間を繰り、助けて頂いて参りました。コロナウイルス感染拡大の影響の為、残念ながら中止することになりました。

年に一回、皆様の元気な顔を合わせるのが、本当に楽しみでした。人数も少数となり、開催の方法も考えなければならぬ状態です。最優先は、皆様の健康です。早く、コロナウイルスが終息することを祈願し、又、開催のリベンジが出来ることを心より祈るばかりです。又、元気に、お会いできることを楽しみにしています。
十分、お体に注意され、お過ごし下さい。(H)